

船員確保対策事業の海事教室を実施！

鹿児島内航海運組合(理事長 原田勝弘)は令和5年度船員確保対策事業として、令和6年1月19日(金)に九州運輸局鹿児島運輸支局と連携し、枕崎市にある鹿児島県立鹿児島水産高等学校の海洋科(海洋技術コース・機関コース)1年生28名と教諭3名を対象に、鹿児島市において海事教室を実施しました。

なお、講師には九州運輸局職員と当組合会員会社で、大型RORO船「うりずんNEXT(7,756G/T)」(大阪～鹿児島～沖縄航路就航)をはじめとして、福岡～鹿児島～沖縄航路等に計9隻(用船3隻含むが)就航している鹿児島荷役海陸運輸(株)グループにお願いしました。

【実施内容】

まず、第一部では、初めに日本船主協会作成のDVD「海の上のプロフェッショナル」を上映し、その後、運輸支局船員担当の中村企画官が、「船員の仕事について～基礎知識と現状～」と題し、船員と海運業のほか、船員の現状等について説明しました。

次に、第二部では「時代と共に変わりゆく船舶環境」と題し、鹿児島荷役海陸運輸(株)海運事業部の小林船舶課長が、会社概要として自社船6隻と用船3隻の計9隻が就航(船員は87名)しており、関連事業の港湾荷役や陸上輸送等(社員280名)も行っていること、また、同社の取り組みとして、働き方改革に伴い大型連休及び週一日は仮バースを確保し停泊することやWi-Fi全船導入・教育用居住区の増設・Mゼロ化等の船員の処遇改善に積極的に取り組んでいることの説明があり、さらに、船舶課今村氏より同社の使用船舶の明細や航路及び運航スケジュール等の説明があった。

その後、鹿児島水産高校OBで、「うりずん21」に乗船している永山船長から、実際の船舶の甲板・機関部の仕事内容や職場ではコミュニケーションが重要であること、同社の大型船舶では4交代制であることなどを説明された。

なお、同社の船舶管理会社である南和海事(株)において、積極的に若年内航船員確保に取り組んでおり、鹿児島水産高校の卒業生も多数いることも紹介された。

最後の質疑応答では、MO船についてや寄港地での休憩時間の過ごし方、就職するまでに海技免状以外の資格取得の必要性等の質問があり、小林課長や永山船長から、MO船については機関部当直の免除や資格については危険物等の資格保有が有利になる等、丁寧な回答があった。

また、事前に海事教室開催についてプレス発表していたところ、KKBテレビ(株)鹿児島放送)と南日本新聞社の取材がありました。

(配布資料)

内航海運の活動（令和5年度版）

- ・内航海運～地球にやさしく日本を運ぶ～
- ・What is 内航海運？
- ・船の仕事ってなに？（マンガ）
- ・応援ノート
- ・クリアファイル

※午後は、独立行政法人海技教育機構の協力により、1月17日に鹿児島港に入港した「海王丸」の見学会が実施され、これには栽培工学コースの生徒を含めた40名が参加しました。

鹿児島内航海運組合は、内航海運の課題である若年船員確保に向けて、今後も、鹿児島運輸支局と連携しながら、このような取り組みを継続していきたいと考えています。

 当日の様子

